

「牧師室」 (2016年1月24日)

わたしの友人 A 牧師が自身のホームページで、桑名教会の証し「戦後 70 年」を取り上げ、紹介して下さいました。ここに一部を再録し、わたしたちが、力を合わせて行ったことの意味を考えて見たいと思います。

先ず以下の文章に励まされました。「教会員が心を一つにして、聖書の御言葉に導かれ、平和を求めて祈り、行動していることに深い感銘を受けた。2015 年度の教会総会において、『敗戦後 70 年』が重要な年であることに鑑み、特別な集会・活動を行うと計画し、そのまとめとして、今思うことを自由に記し『戦後 70 年』を出したという。教会員 50 人くらいであるが、31 人ものが平和への篤い思いを寄稿している」。寄稿された一つ一つの文章を丁寧に読んで頂けたことが伝わって来ます。更に、証し集の中の次の文章を引用されています。

「私たち桑名教会の歩みを振り返って見ます時、時代と社会・政治の状況の中で、僅かであれ聖書の信仰に基礎を置いた発言と行動を取って来ました。私たちにとって、イエス・キリストの主権がなおざりにされ、冒されている時に、『まるで何もなかった』かのように、信仰生活を続けることは許されません。「何もなかったかのように」と言う言葉は、ヒトラーに抵抗したカール・バルトのものです。

A 牧師はまた、桑名教会が教団の「戦争責任告白」を今日も重要視していることを評価してくれています。地方にある教団の一教会として、今の時代に、聖書の言葉を使えば「見張りの役」を果たして行くことの重要性を改めて思い出させてくれた友人の文章でした。信仰において結ばれている良き友があること、わたしたちの戦いは、今後も続くことを、忘れてはなりません。